

令和7年度分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和7年度分について、輸出額は「自動車」「自動車の部分品」などが減少したことから、対前年度比0.2%の減少となった。また、輸入額は「原粗油」「液化天然ガス」などが減少したものの、「原動機」「通信機」「衣類及び同附属品」などが増加したことから、同0.0%の増加となった。
その結果、差引額は8兆6,475億円（同0.5%の減少）となった。

名古屋港における差引額は、平成10年度以降28年連続 全国港別（空港含む）第1位

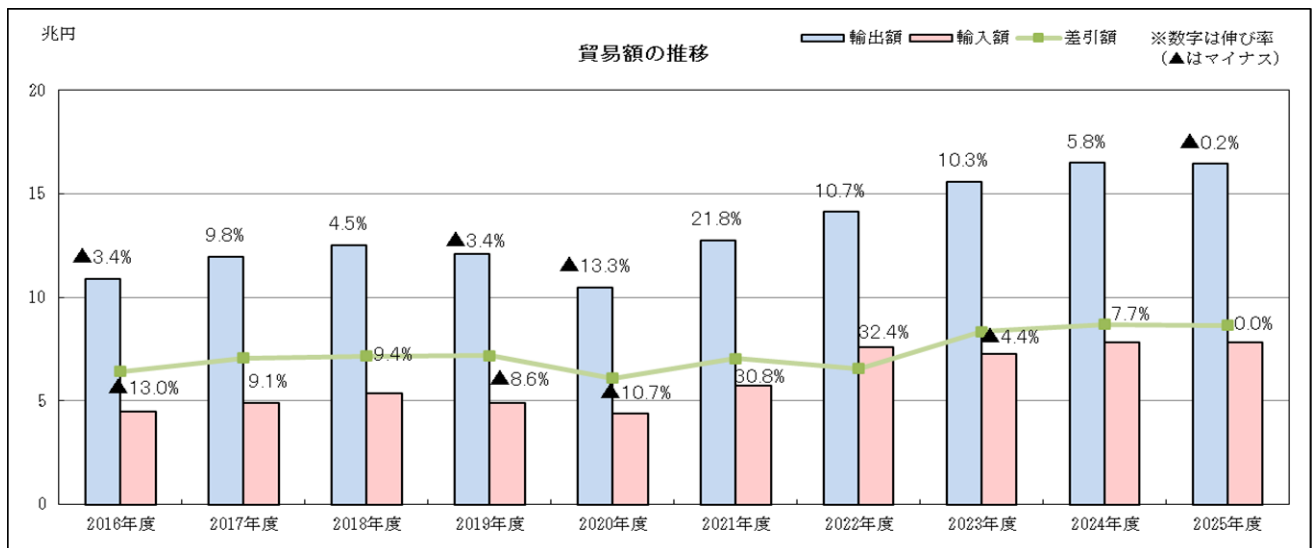
注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年度比による。
また、★印は名古屋港において全ての年度を通じて過去最高を示す（1979年度以降のデータを基礎として比較）。

○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	16兆4,572億円	▲0.2%	★ 7兆8,097億円	+0.0%	8兆6,475億円	▲0.5%
	5年ぶりの減少		2年連続の増加		3年ぶりの減少	
	順位	過去 2 位	順位	過去 1 位	順位	過去 2 位
管内（名港シェア）	25兆7,439億円（63.9%）		14兆2,739億円（54.7%）		11兆4,700億円（—）	
全国（名港シェア）	113兆2,423億円（14.5%）		114兆9,568億円（6.8%）		▲1兆7,145億円（—）	

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出減少	(1) 自動車	4兆8,879億円	▲4.6%	▲1.4	5年ぶりの減少
	(2) 自動車の部分品	1兆8,593億円	▲9.2%	▲1.1	2年連続の減少
輸入増加	(1) 原動機	1,072億円	+37.4%	+0.4	5年連続の増加
	(2) 通信機	★ 1,196億円	+26.5%	+0.3	4年連続の増加
	(3) 衣類及び同附属品	4,129億円	+6.2%	+0.3	3年ぶりの増加
減少	(1) 原粗油	4,931億円	▲23.4%	▲1.9	2年ぶりの減少
	(2) 液化天然ガス	4,979億円	▲12.7%	▲0.9	2年ぶりの減少



※名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。